
ドーナッツの穴

麻雀小僧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドーナッツの穴

【Nコード】

N1462Q

【作者名】

麻雀小僧

【あらすじ】

それは本当にあるのか無いのか。

ヨシオ君は3時のおやつに出た大好物のドーナッツを食べていました。

しばらくしてヨシオ君はお皿の上のドーナッツを綺麗に食べきったのですがドーナッツの穴は残していました。

ヨシオ君はドーナッツよりこのドーナッツの穴が何よりも大好きなので今は大事に残してお夕飯の後で食べようと思ったのです。

ヨシオ君はお皿にラップをかけて冷蔵庫にそつとドーナッツの穴を入れました。

夕食の後ヨシオ君は大事に取って置いたドーナッツの穴を食べようと冷蔵庫を開けたのですがドーナッツの穴がありません。

お父さんやお母さんにお皿を突き出してドーナッツの穴について問いただしても二人はわからないと答えるばかりでした。

内緒で二人で食べちゃったんだと思ったヨシオ君は泣きながら自分の部屋に閉じこもってしまいました。

何を言ってもヨシオ君は部屋から出てこようとしないので仕方なくお父さんとお母さんは次の日にドーナッツの穴を買いに行くことにしました。

そして箱いっぱいドーナッツの穴を買い帰宅すると、まるでドーナッツの穴を買ってくるのを知っていたかのように目を輝かせたヨ

シオ君が待っていました。

二人は肩を竦めて、やれやれと言った顔でヨシオ君にドーナッツの穴の詰まった箱をプレゼントしました。

ヨシオ君は急いでその箱を開けて中を確認しました。

箱の中には何も入っていませんでした。

（後書き）

結構前に書いた物です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1462q/>

ドーナッツの穴

2011年1月14日01時29分発行